

講義名	教職実践演習【教職に関する科目】		
科目区分	教職に関する科目		
担当教員	池田 曜子/西尾 範博/水田 聖一		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	4年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b>			
<p>これまでに履修した教科及び教職専門科目に関する知識技能を踏まえながら、「教師としての使命感や責任感、教育的愛情」、「社会性、対人関係能力」、「生徒理解力、学級経営力」、「教科指導力」において必要な資質能力を高める。</p> <p>イントロダクションは学内の教員全員で行い、その後、教職担当教員3人のオムニバス形式で講義・グループ討論・フィールドワーク・模擬授業等を行う。その際、学内の「教科に関する科目」の担当教員と協力して行う。7回目以降は「商業科」と「公民科」に分ける。</p> <p>5回程度、学外の教育委員会や教員の協力を得て、学校見学を行い、ゲストティーチャーとして講義やグループ討論の指導を得る。</p>			

<b>到達目標</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>教師としての使命感や責任感を持ち、学習者に対する愛情を豊かに持つ。</li> <li>社会性や対人関係能力について、深い洞察力と実践力を身につける。</li> <li>生徒理解や学級経営等に関して、必要な能力の基礎を身につける。</li> <li>教科指導において、教師として最低限必要な実践的運用能力を身につけ、研鑽を深めていく。</li> </ul>			

<b>提出課題</b>			
レポート、グループ討議、指導案の提出、模擬授業など			

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>			
プレゼンテーションのあとコメントと改善点を指導する。			

<b>評価の基準</b>			
レポート(40%)、グループ討議(30%)、模擬授業(30%)、を総合的に判断する。			

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>			
皆出席を前提とする。 教育実習の資料等を持参すること。			

<b>教科書</b>				
・自己成長を目指す教職実践演習テキスト、	原田恵理子他	北樹出版	1600	9784779304064

<b>プリント資料及び参考文献</b>				
高等学校学習指導要領解説(文部科学省)				

<b>授業計画</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [イントロダクション] 学修の振り返り、講義概要・進め方の説明(担当:西尾、水田、池田)</li> <li>2. [教職の意義と職務内容] 教職の意義、教員の役割(グループ討議、ロールプレイング) (担当:西尾)</li> <li>3. [子どもに対する責任] 教師の役割、使命、責任(グループ討議等) (担当:水田)</li> <li>4. [生徒理解1] 生徒理解全般に対する講義、グループ討議(担当:池田)</li> <li>5. [対人関係] 社会性や対人関係能力に関する講義、グループ討議(担当:池田)</li> <li>6. [生徒理解2] 生徒の家庭生活実態に関する講義、グループ討議(担当:池田)</li> <li>7. 学級経営案の作成とグループ討議(公民科担当:西尾、商業科担当水田)</li> <li>8. 保護者への対応・連携に関する講義、グループ討議(公民科担当:西尾、商業科担当水田)</li> <li>9. 学校教育現場の見学(公民科担当:西尾、商業科担当:池田)</li> <li>10. 学校教育現場の調査(公民科担当:西尾、商業科担当:池田)</li> <li>11. 学校教育現場見学・調査の振り返りとグループ討議(公民科担当:西尾、商業科担当池田)</li> <li>12. 模擬授業の計画立案(公民科担当:西尾、商業科担当水田)</li> <li>13. 模擬授業の実施(公民科担当:西尾、商業科担当水田)</li> <li>14. 模擬授業の講評(公民科担当:西尾、商業科担当水田)</li> <li>15. 授業のまとめ、討議の振り返り。教師としての資質能力の自己評価(公民科担当:西尾、商業科担当水田)</li> </ol>				

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>				
ア：PBL（課題解決型学習）				
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）				
ウ：ディスカッション、ディベート				
エ：グループワーク				
○ オ：プレゼンテーション				
カ：実習、フィールドワーク				

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>				
模擬授業に備えて、指導案の作成や教材研究を十分に行うこと。				

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>				

<b>実務経験の有無及び活用</b>				

<b>備考</b>				
学校教育現場への見学は、毎週の開講時間とは別の日時に行います。				